

「東京真田町の会」会報

# 日本タボス

平成5年12月25日



遠き故郷の歴史を訪ねて  
**長谷寺の石門**

NO.

**6**

# 「東京真田町の会」設立五周年を迎えて

会長 小林孝雄



会報「日本ダボス」第六号をお届けいたします。  
去る九月十八日(土) はあと



## 「ふれあいのあるふるさとづくりを目指して」

真田町長 若林康朗

いん乃木坂」において、東京真田町の会第六回総会が開催され、真田町から若林町長、山宮議会議長ほか三十数名の幹部の皆様および郷土選出の井出代議士、羽田外相秘書のご出席を頂き、盛会裡に設立五周年を祝うことができました。

東京真田町の会は、昭和六十二年九月十日真田町発足三十周年記念事業の一つとして設立され、今年九月で満五周年を迎えることとなりました。この間会

員は、発足当初の五三四名から六七六名と一五〇名の増加を見

また「ふるさと訪問」、「ふるさと産直」等を通じ、真田町との交流も着実に進展して参りました。これは、会員皆様のふるさとに寄せる温かい想いと同郷の者のみを知る固い結束がもたらしたものであると思います。加えて、若林町長ほか真田町役場、議会、振興公社等関係の皆様方の熱心かつ温かいご支援のお蔭と深く感謝申し上げる次第であります。

ります。

今回五周年を記念して、新たに「会員名簿」と「東京真田町の会創立からのあゆみ」を作成いたしました。会員名簿は、真田町商工会並びに会員有志のご協力により出来上がりました。会員相互のコミュニケーションに役立てて頂けるようお願い申し上げます。

「ふるさと訪問」は、今回で第四回目となり、九月十一日、十二日の二日間に亘り、信州博

見学をかねて実施いたしました。

ふるさと訪問は、今後とも時期、訪問先等会員皆様が多勢参加で参りますように計画し、実行して参りたいと考えております。

東京真田町の会も六年目に入りましたが、役員および「青壮年部」幹事一同協力し、本会がより強固な親睦団体へと発展して参るよう努力を傾注しておりますので、会員皆様方におかれましては、何卒ご協力ご鞭撻をお願いする次第です。

理事役員の皆様の御高配に感謝を申し上げます。

東京真田町の会の皆様には、益々御健勝で御活躍のこととお喜び申し上げます。

去る九月十八日開催された第六回東京真田町の会の総会は、大勢の会員の皆様のご出席により、総会が盛大に開催されたことを心からお喜び申し上げますとともに、町からも大勢お招きいただき小林孝雄会長様をはじめ

の町政へのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、平成五年も残りわずかとなり二十一世紀を迎えるまで七年、ますます進展する高齢化、高度情報化又、平成九年には、上信越自動車道・北陸新幹線の開通そして翌年には長野冬季オリンピックの開催と真田町を取り巻く社会情勢は、今後一層複雑多様化してまいります。町は、このような情勢の中におきましても将来をしっかりと見据えた計画行政により住民が一体となり「ふれあいのある町づくり」を進め会員の皆様にも誇れる「ふるさと

真田町」にしていかなければならないと考えております。

今年は、特に真田町におきまして長年の念願であった温泉を活用した室内温泉プール・露天風呂等も含めた入浴施設・コミュニケーション施設を備えた真田温泉健康ランド「ふれあいさなだ館」とこれからの高齢化社会の拠点として「特別養護老人ホーム」「デイサービスセンター」在宅介護支援センター」を併設した「アザレアンさなだ」の両施設が四月にオープンし役場を中心とした「ふれあい福祉健康ゾーン」の完成を見ることができました。

これもひとえに、会員の皆様、先輩各位、町民の皆様のご努力とご協力によるものと深く感謝申し上げます。

町は、これからも本年度からスタートした第三次長期振興計画後期計画に沿って、出合いとふれあいを大切に、会員の皆様誇りの持てる、若者に夢と希望を高齢者に安心と生きがいのある住み良い豊かなふるさとづくりに、より一層努力していく所存であります。

終わりに東京真田町の会の益々のご発展と会員の皆様のご多幸を御祈念申し上げ、ごあいさついたします。



真田町助役 中村裕一

が、尽力をしてまいりたい所存です。今後とも一層のご指導、ごべんたつを賜りますようお願い申し上げます。

さる六月八日付をもちまして助役を拝命いたしました。浅学非才でございますが、誠心誠意与えられた職務を努めたいと、決意を新たにしているところであります。

若林町政が進めております子供や孫たちに「誇りのもてるふるさと」を贈り届けるため、その一員として微力ではあります



真田町収入役 古居久典

東京真田町の会のいよいよの発展と会員皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げご挨拶いたします。

遊びと、ふるさとの自然を堪能した少年時代を想い出しているか、あれから高度成長の波によって古きよき日本が忘れられてきたような気がします。

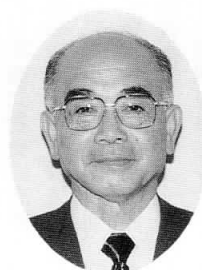
職員のとときには、大変お世話になりました。今回はからずも収入役と言う役職を拝命し、緊張しております。

私の友人も大勢東京方面に出ています。一番早く出た友人は昭和二十五年ですから、もう東京人になってしまったかなと思っています。

夏の日川に遊び、秋の日山に

会員皆さま方の御発展と御健康を心から念じなお一層の御指導をお願いいたします。

## 退任に当って



松尾一久（前教育長）

の一時でありました。あれから五年、今年は創立五周年を記念する第六回記念総会が盛大に開催されました。感慨一入のものが、衷心からお慶び申し上げます。

私にとって総会への出席は、生きる喜びを感じると共に、その職務に対し決意を新たにする機会でもありました。ご参会の方々からのお励ましのお言葉にどんなに勇気づけられたことか、本当に有難く感謝いたしております。

近年の社会情勢の著しい変化の中にあつて教育もその転換期を迎えております。生涯学習が時代の大きな流れとなっている今日、学校教育をはじめ、社会教育、芸術文化、スポーツ等にも多くの課題をかかえ、時代に対応する教育行政の責務は一段とその重要さを加えてきております。顧みて、幾多の紆余曲折を経ながら、何とかここまで歩んでくることが出来たのも、皆様の温かいご指導ご厚情の賜と感謝の気持ちでいっぱいであります。

これからは一町民として、今を大切に、自分なりの生き方を

求めてまいりたいと考えております。今後とも変わらぬご交誼をよろしく願ひいたします。

本年の総会の折にいただいた「東京真田町の会―創立からのあゆみ」を手にしながら、会の限らない発展に想いを馳せ、心から祝福を申し上げると共に、向寒の折、会員皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げご挨拶いたします。



## 東京真田町の会設立の思い出

真田町教育長 三井俊男



松尾一久前教育長の退任により、このたびその後任として不肖私が教育長を拝命いたしました。今、私たちの生活は経済的にも豊かになり価値観も変わ

り多くの人が「心の豊かさ」を求めるようになって参りました。これからの町づくりは総て

の町民の皆さんが豊かな心で生き生きと生活できるような町づくりではないかと思っております。教育の基本を「人づくり」に置き、また多くの人たちが生涯にわたって学習のできる「環境づくり」をめざし、微力では

ありますが、より良い教育行政推進のために誠心誠意努力して行きたいと考えておりますので、真田町の会の皆様にも温かいご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて光陰矢の如しと申します月日のたつのは速いもので「日

本ダボス」も第六号とのことですが、そうしますと当然、真田町の会の結成以来もう五年を経過したことになります。私は当時役場の企画課で東京真田町の会の結成事務に携わっておりまして、この際感動の設立総会に至った経過について思い出をご報告させていただきます。

東京真田町の会の結成を思い、たつたのは、真田町が三ヶ村合併してちょうど三十年の節目の年を迎え、これまでの歩みを感じ起すと同時に町民参加のもとに夢と可能性を秘めた記念事業を実施しようと計画した時に始まります。その中に○首都圏に在住する町出身者を対象に「東京真田町の会」の結成、○消防音楽隊の結成、○真田八景の選定、○行政資料や個人の便りを「二十一世紀へのメッセージ」として三十年後に開封するタイムカプセルの設置、○町の過去・現在・未来をテーマに夢と希望を持った町づくりを示唆するビデオの製作、その他公園整備や花街道の整備など十九事業を計画し、それぞれ各課で分担し実

施をいたしましたのですが、東京真田町の会の結成は企画課が担当し昭和六十三年一月に真田町の全戸（約三千戸）をお願いして東京、神奈川、千葉、埼玉の首都圏在住の皆さんの紹介を頂き、その結果対象者数一、一五〇人にもものばったわけでありました。しかし紹介を頂かなかった方々も沢山ございまして反省をいたしましたわけですが、その後皆さん誘いあって頂いているようにお見受けいたしております。一、一五〇人の方々には往復葉書をもちまして真田町の会への入会を募集したのですが、その結果、五三四名にもものばる皆さんに会員となって頂きました。

そして設立総会に向けての役員構成につきましては会員になって頂いた中から、旧村別、都県別に概ね均衡するよう設立準備会の代表者として二十五人の方々をお願いし、「番町グリーンパレス」にて第一回目の準備会を開催したわけでありました。一方的な指名、また初めての会議や役員構成など大変不安もございましたが、小林孝雄会長さん

はじめ全員に無理をお願いしてお引き受けを頂き、極めて順調に第一回の準備会が終了でき感謝したことを覚えております。第二回目の準備会も同じ会場で会則（案）や事業計画、予算、設立祝賀会次第などを決定し、そして九月十日の池之端文化センターの設立総会を迎えたわけでありました。

祝賀会ではふるさと真田町を思い出して頂き、そして喜んでいただくために配慮しました。いくつかをご紹介しますと、当日招待を受けました来賓の選定につきましては、ふるさとの話題や香りをいっぱい持参できるような人たちということで各種団体長の皆さんそして町議会の議員さんなど総勢四十人程だったと思います。またアトラクションは役場職員による舞踊や、真田町の吟詠詩舞グループの代表の皆さん、それに民謡では長野県代表として全国大会に三年連続で出場したことのある滝原邦雄さんやNHKのど自慢大会で合格した堀内文江さんの他に真田町を代表する歌謡曲の名士の皆さんにも出演をお願いしました。また東京真田町の会の結成を祝う鏡割りには、地酒の「真田城」の酒樽を持参し、また皆さん全員に名入れの一合升も配ったので大変喜んでいただけ

たと思っております。それから

出席者全員に持ち帰りを頂く土産品については、当時はまだ農協合併がされていなかったために、農協ごとご寄付を頂いたのですが、傍陽農協からは「えのき茸」、長農協からは「もちこし（ピーターコーン）」、本原農協からは「りんご（つがる）」をそれぞれふるさとの味として、皆さんが家に持ち帰って家族で楽しんでいただくよう配慮した次第であります。

東京真田町の会の結成は総勢三百名の皆さんが三十年、四十年ぶりに再会し、ふるさとを語り、思い出を語り、中には涙を流して喜んで頂いており、この企画は、大成功だったと思っております。その後も何回か総会に出席させて頂きましたが、その都度何十年ぶりの出会いがあり感動があります。今後も末永く発展されて行くことを願っております。最後に貴会の益々のご発展と会員の皆様のご活躍をお祈り申し上げ筆を置きます。



# ふるさと訪問旅行に参加して

内海 宏光（大庭出身）



高音と低音を巧みに折り混ぜたような近くの軒にふと目を覚ますと、障子の向こうが薄明るく見える。床より這い出し、ねむけ眼で障子を開けると部屋の中が一気に朝を迎えた。ふらつく腰を支えるようにしてガラス窓を静かに開けると何とも言いえぬ爽やかな風が部屋に流れ込み、昨夜の熱気がかすかに残る部屋のそれと入れ替わる。先程まで聞こえた軒も止み、耳を澄ますと谷川のせせらぎと小鳥のさえずりが聞こえるのみで辺りは静まり返っている。まるで無の世界のようだ。私はタオルを取り寝ている仲間の間を足音を忍ばせ部屋を出て、薄暗い廊下を露天風呂へと下りて行った。風呂には先客が一人、信濃の民謡を口ずさみ首まで湯に浸かり谷間の景色を目で追っていた。

私も、「おはようございまーす」と声をかけ湯に入った。湯の中で深呼吸すると、おいしい空気が胸いっぱいとなり身体の隅々まで行き渡るようだ。あたりを見渡すと山並みの間に霧が下りてきた。何も考えずそれを眺め、じーと湯に浸っていると自然に、「幸せだなーあ」とつぶやいてしまった。私の「ふるさと訪問旅行」二日目は、鹿教湯温泉ホテル文殊荘の露天風呂で迎えました。

昨日のことを思い出すと、新宿駅の待ち合わせ場所で役員振る六文銭の旗のもとに集合、バスの到着を待つ間はまだまだよそよそしかった人々がバスに乗り席に落ち着いた途端、「何処の部落の人だーい」、「何処の息子だーい」、「とうやんのなまえはなうていうだーい」、「あのうちに、こゝな娘いたっけー」、「今日は天気になって本当によかったわーい」、「みんなは、おらーへー今日雨がふるじゃーねーえーかと、えれーえ心配したにー」等等聞き慣れた田舎の言葉が話し出され、皆々一瞬にして真田町の人になってしまったこと、

また、自己紹介の後、皆々親戚同様となり持参した食物等をお互いに分け合い話が弾み楽しかったこと、

松本の信州博会場から鹿教湯温泉に向かう途中、先輩が初めて松本連隊に入隊した時の話、そして初めてのビンタの話等・・・思い出しは一人笑いをしてしまった。

今日は、「おらが村」真田町を訪問する日です。別所温泉の北向観音様への参拝、「愛染桂」の逸話と記念撮影もそこそこに、心は真田町へ飛んでいます。

バスの足取りも軽やかに、塩田、上田を経て正午前には真田町役場に到着しました。役場の関係者の暖かいお出迎えを受けて、直ぐに真田氏発祥の郷歴史の館「古城庵」に引率されました。ここは昔の「お屋敷跡」で小学校の遠足で来た記憶があります。庵内では引率者が、川中島合戦の際における真田幸隆の活躍、真田信綱・昌輝兄弟が長篠の合戦で討死した話、そして大阪夏の陣における真田幸村・大助親子の壮絶なる戦死をした話等、おらがふるさとから生まれた英傑の逸話に感動しました。

また隣の「真田庵」にて頂いた胡麻のおはぎと野沢菜の漬物の美味しかったこと正に、「かあやんの味」でした。また、役場への帰路、今年の冷夏及び長雨の影響について、真田町地区の稲・果物・そして野菜の出来具合は幸いにも、まあまああとの説明があり、窓辺より頭を垂れる稲穂や鈴生りのりんごを見比べ参加者一同安心しました。

真田町温泉「ふれあいさなだ館」にては若林町長始め、幹部の方々総出の暖かい歓迎とマグマより湧き出でる温泉の歓迎に

ふるさとのありがたみを満喫しました。湯から出て大広間を覗いてみると、家族連れや、孫連れの老夫婦等が美味しそうにうどんを食べているのを目にした時、一瞬間を掠めたことは、お風呂好きの両親がもう少し長生きしていたら毎日でも温泉に入れたのに残念、とのことでした。将来は宿泊施設も新設すること、是非、夫婦で訪問したいと思えます、有意な旅行でした。最後に、今回の旅行を企画・実行して頂いた関係者の方々には大変感謝します。



ふれあいさなだ館前にて

# 信州博見学とふるさと訪問

\*\*\*\*\*



森田 文子（坂口）（下原出身）

今回「東京真田町の会主催」の「信州博見学とふるさと訪問旅行」に参加させていただきまし

た。総会にも出席した事もなく、旅行にも初参加でしたが皆さんすぐに打ち解けて下さり、和気あいあいのバスの中、人生の先輩の方々のお話を伺いつつ、一路秋を告げるコスモスをながめながら信州博会場に着きました。途中降り出した雨もやみ晴れ間の中、種々の展示品や、自然にやさしくをテーマにしただけあり、あちらこちらに植えられた木や小川をながめながら信州の青い空に気持ちもゆったりしました。かなりの人の入場がありました。

宿泊した鹿教湯温泉は、さすがに鹿教湯温泉のよい湯でいつでも入れるとの事でした。宴会ではおいしい料理をいただきながら皆さんのすばらしい声も聞かせていただきました。

二日目は別所のお観音さんを参拝した後、真田町に入り役場に着きました。当日は休日にも拘らず職員が出迎えて下さり、「御屋敷公園」を案内して下さいて展示品の真田一族の関係する品々を丁寧に説明して下さい、休憩所ではおいしいおはぎと野沢菜を賞味しました。

次はいよいよ皆さん期待の「真田温泉」で、町長さんが出迎えて下さり、内部を説明して下さいました。温泉プールもりっぱなもので、風呂もながめがよく素晴らしいものでした。ここも沢山の人が出入りしており、親子の姿も多く楽しそうでした。私もふるさと自慢が又一つ増えました。

実家の周辺も帰る度が変わって行きます。団地が増えて、又、我家の畑だった所も整地される由、なんととはなしに淋しさも感

じますが、立派に整地され、団地も増え、益々活気あふれるふるさとになっていくのがとてもうれしいです。

おいしいりんごのふるさと、おいしいものふるさと、そして真っ青な空にそびえる烏帽子岳、そして温泉、素晴らしい真田町に益々の御発展ありますように心よりお祈り致します。

最後になりましたが野菜のお土産もいただき、町長さんはじめ職員の方がバスまでお見送りして下さいありがとうございました心より感謝申し上げます。

壮青年部の幹事の皆様におかれましては、細かい所まで注意をはらって下さり、大変楽しい旅行にさせていただきました心より感謝申し上げます。



清水 清晴（中横道出身）

東京真田町の会では九月十一日の両日、信州博とふるさと訪問を実施しました。

会員二十二名は十日午前八時三十分新宿西口に集合し、バスにて中央高速道を一路会場へ向かう、バスの中で萩原幹事さんの行程についての説明があり又今年は、初参加の方がおります関係、車内に於いて自己紹介があり、某氏曰く「今日は妻と同伴しました、妻は私の母（姑）が今年の春、百才で天寿を全うした、姑と四十年の間最後まで文句を言わずに面倒を見てくれた、その罪滅ぼしに同道宜しく」簡単に四十年というが大変なものだと私は思いました。

十一時半ごろ会場の南ゲート駐車場に到着、係員の先導で入場したが会場は広く、どこもかしこも人・人・人。

郷里の、上田・小県マップラリーに挑戦するなどして午後三時まで自由行動見学し、鹿教湯温泉に一泊し十一日午前八時すぎ宿舎を後に、信州の鎌倉別所北向観音様に参拝し、目的のふるさと訪問の途につく、十時すぎ、真田町役場に到着し、荒井企画課長・滝沢主任・宮崎主事の出向かいをうけ早速今年の五月竣工した、真田氏歴史館へと案内していただき、荒井企画課長の館外地形から、館内に展示されている、真田町地形模型、真田氏関係年表、真田三代記錦絵、信綱寺の鬼板、真田昌幸朱印状など、数限りない歴史的展示品全般のご説明を事細かくしていただきました。見学時間は約一時間、

歴史館をあとに、ふれあいさなだ館（信州真田温泉）へ、若林町長・中村助役・古居収入役・松尾教育長・渡辺課長代理・堀内次長などの、大勢の方のお出

迎えを受け、三笠宮寛仁殿下ご夫妻、お手植えの松のご説明を町長よりお聞きして入館、堀内振興公社次長の説明で、温泉、温泉プール、トレーニングルーム、マッサージコーナー、ロビー、大広間などを拝見して、懇親会場の和室に於いて、若林町長の歓迎のご挨拶、町の行政と、アザレアンさなだ(老人ホーム)の運営について、老人ホームには短期と長期があり、今は全部ご利用くださっている、四月十二日にオープンした、真田温泉も、九月九日までの百二十九日間の営業で、入館者十五万人を突破、七月二十九日、営業開始九十三日目で十万人達成した、ところが十万人目の方は上田市の方で、利用者は、町民よりも外部者が多い、前後入場者五名のうち一人が真田町の住民であったなど、真田町が日に月になゆまざる進歩を続けている有り様をお話しになり私たちも自分の事のように嬉しくなりました。



信州博 上田小県広域館

で懇親会をしていただき、約二時間、真田温泉に入らせていただく人、ふるさとの山河をながめる人、空気を胸一杯吸う人、懇親会場で、町長さんや助役さんなど話して華をさかす人。午後二時、今朝菅平で取りたての、レタース、野沢菜漬等の沢山のお土産を頂き、真田温泉さなだ館前にて町長さんほか関係係官十数名と記念写真撮影をした後、皆さんのお見送りをうけて真田町を出発、佐久インターより東京へ、午後六時すぎに、昨日出版した新稿に無事到着解散しました。

## 六文銭の由来に想う



塩崎武男(大畑出身)

六連銭ともいう。お金儲けを願ってできた紋かと思う向きもあるがそうではない。これは六道(地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天下)の衆生を救うために三途の川を渡るときに船賃だ。いわずと知れた仏教の説話からきている。

士の活躍もさる事ながらそれに続く多くの勇士があつた世で仏様に救って貰えるの暗示から身命を賭して戦えたのも一因ではないだろうか。六文銭を家紋に用いた智将を称え真田家の遺徳を偲びつつ今年も、ふるさと訪問の一員となっていた。

「旗は六文 心は千曲  
残る勲は 永久に」

これは戦前、流行した上田小唄の一節である。六文銭と言えど、真田家、真田家と言えど六文銭、戦国時代を風靡した真田一族の旗幟の起源を辿ってみた、我々ふるさと訪問に際しても集合場所の目印は六文銭の旗の下、上田駅で林立する六文銭の旗に迎えられる上田城から真田町へそして真田家の遺跡、史跡、信綱寺から始まりお屋敷までの数カ所巡りとなる、当然ながら六文銭一色、わが故郷は「真田氏発祥の郷」なりの認識を強める。

偶々読売新聞の「家紋百科」に次のような記事が有りましたので参考までに引用しました。

〔六文銭〕

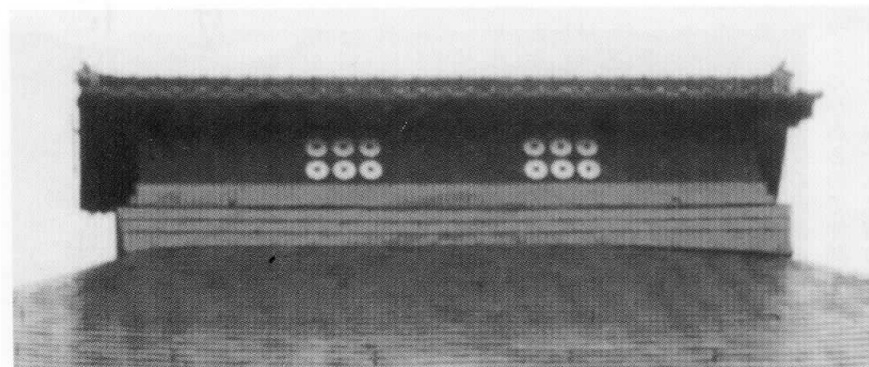
一文銭を三個二列に並べた珍しい紋。銭が並んでいるので、

だれが使用するかと言えば、信州(長野県)の殿様真田家だ。講談などで有名な真田幸村を出した一族。信濃は山国で貧しい。間引きも行われる。戦争もたえない。真田氏の祖はこれらの農民を思つて涙を流した。「せめてあの世でお地蔵様に救ってもらおう」と祈る気持ちでつくった紋なのである。

「何? 三途の川など知らない? この世とあの世との間を流れる川さ」。

(米オリエンタル大学名誉教授・丹羽基二)

この説話は「地獄の沙汰も金次第」とか諸説を幼少時先人たちから聞いた記憶が蘇る、殊に三途の川の船賃は、現在でも黄泉の国に旅立ちには六文銭を持たせてやる風習が残っている(昔は現物(古銭)であつたが現在は制約ありて紙製)。真田軍勢の恐れられたる原因に奇襲や十勇



## 洗馬川



柳沢

實（萩出身）

い。又七夕の一夜は河原に小屋がけを成し飯を炊き、まんじりともせず遊び呆けたあの頃、又厳しい冬の洗馬川はその水量を減じ川岸の灌木様に思える柳は寒気に耐えて健気さえ思えたものだ。

南に太郎山を仰ぎ、後背はヤケノなる山あり、斜面は中腹まで桑園の緑に覆われ幅狭い農道はやがて山みちと名を変え頂上へと続く。尚この桑畑に美味なる実を付ける畑一枚あり、悪童共数人桑畑に侵入、これを食し中で悪ふざけに及ぶこともしばしば。或る時は地主に捕まりその大目玉に、口端を紫に染めた。いがり頭はひたすら俯くのみ、亦この山頂から眼下に広がる曲尾横尾萩大庭の各集落、のどかな田園は緑一色。眼前に展がる雑木林、そこに混在する松の梢をゆすり乍ら吹きぬける風は時に高く又低く音楽を奏でる。その風に流される様子を上げ視界から遠ざかる鷺一羽、又山ひだ一つ隔てた東側斜面の一部には秋の味覚、アカンボ茸の群生場

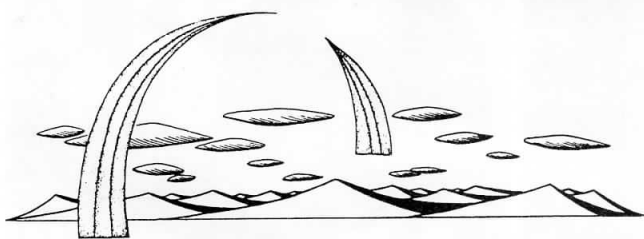
## 四十五年目に叶った夢

大橋けさ子（山本）（菅平出身）



所があり、その年の条件にもよるが、タイミングが合致すれば子供の手に余る程の収穫があった。誠に私にとって、洗馬川、ヤケノの山は恵み多い母なる川であり山であった。尚この文については極く限られた一部地域の人のみにしか理解されない地名や、私の思い違いによる誤記がありましたらお許し願いたい。

旧傍陽村大倉、大良この山間を源流とする二条の川は洗馬川となり、途中取水された小川は農業用水に、そして生活用水として幾百年もの間住民を潤し、流域住民は自然の恵みを受容し、又或る時は水涸れによる争いに、時に荒れ狂う川の氾濫に田畑の流失と、自然との闘いも又想像される。この川の下流、萩、曲尾を二分するところ中村橋があり、ここから上流を望むあたり左側に萩部落が一画を成す。亦川を挟んだ右側、早稲田なる萩区の飛地ありその戸数僅か数戸を数えるのみ、私はこの地に生れ育った。夏の川は鯉採り、堰を築いての水遊び清流は冷たく長く水中に留まることを許さな



十歳の夏始めて大川に入った。七坪位はあっただろうが、広く感じた。水草がゆれて川底が見える清流だった。十分も入っていると唇が紫色になる程、水は冷たかった。臆病な私だったが、不思議と恐怖感はなくあった。夏の太陽が照りつける水面は、キラキラととても神秘的だった。何とか泳ぎたいと夢中で手足を動かしていた。川に入る事は親に禁止されていたので、人の気配がすると橋の下に隠れた。荷馬車が通ると土埃を被った。家の者に悟られない様に十時頃でかけて昼食に遅れない様にしながら、頭の埃を洗い流す知恵はなかったようだ。二日目、もう一頑張りすれば犬カキが出来る確

信が持てた。三日目、「今日こそは頑張るぞ!」と、前日より早目に兎の餌を刈りに行く振りをしておかけようとした時、父が「橋の下には、蛇がいるぞ!」と言った。蛇が苦手な私にはどんな叱責よりも、効果があった。以後、川に入る事はなかった。あれから四十五年、テレビで「水の中の運動」という番組を観た。水中での歩行は膝の関節にかかる負担も少なく良い運動になるという内容だった。徒歩で三十分位の所に市営の温水プールがあるので仲間と行く事にした。四十五年前の事が鮮明に想い出された。初日、「ヨシ! 今日が三日目、頑張るぞ!」と、当時と同じ様に手足を動かしたら、何の苦勞もなく犬カキが出来たのです。「ヤッタ!」四十五年前の夢が叶ったのです。帰り道、口許のゆるみはどうしようもありませんでした。そして二年、今では、クロールで二十五m泳げる様になりました。健康のため、楽しみながら続けて行こうと思っています。

## 東京真田町の会総会に出席して



中島正江

(関谷) (戸沢出身)

二年ぶりに東京真田町の会総会に出席出来て大変嬉しく思いました。

何回か出席していますと、いつものお顔を拝見した時あつ皆様お元気だったのかとほっとする瞬間でもあります。

又今年は歌手の「諏訪ひろみさん」が出演されるとの事、私は全然知らなかったのですが、姉(安田節美)が「真田町戸沢の柳沢誠ちゃんの娘さんだよ」と教えられびっくりして急いで花束を買いに走りしました。

私の子供の長女、長男が、里帰りの時に家の前を通る時私の兄(関谷哲郎)に「オッス」と合図をして通って行った子供がひろみちゃんだったのかと感無量で涙が出て来ました。

歌の最中は戸沢出身の皆さん(宮島辰夫さん、旧姓柳沢すずさん、まきちゃんご姉妹、私の姉と柳沢恵三郎さん六人)でひろみちゃん!!とアイドル歌手の応援をまねて声を張り上げ、皆さんに笑われてしまいました。……すずちゃん、まきちゃんが「わが故郷戸沢にもこんなすばらしい人が誕生したのか」と、嬉しくて涙がとまらないと舞台

に近づいてひろみちゃんのおじいちゃんの話をしていました。

又長野で旅行会がある時にはお会いしたいと思っております。

私も日々忙しく、午前中は tenis、午後はメナード化粧品店の番と、日、祝日は世田谷少年サッカー連盟の会長としてサッカーの試合が円滑に進んでいるのか?又雨の日には中止か早朝より空をながめながらどうか良い天気であってほしいと祈りながら過ごしている日々です。

Jリーグサッカーも発足してすごい盛り上がりですので世田谷区内でも、少年の部54団体で登録人数約四千五百名、チーム数は約三百チーム春、秋と大会がありますが、七百〜八百試合を消化しないと終わらないのでグラウンド確保が大変です。田舎の学校のグラウンドが広いのでうらやましく思います。

さなだ温水プールも工事中(やや完成に近いころ)見せて頂きましたがとても立派ですね。

役場の近くを訪れるたびに近代化されすばらしいね。…と思わず声が出てしまいます。又夏休みは菅平で合宿の折には一度子供達も連れて泳いでみたいものです。

今真田町の山々は紅葉の季節かなあーと思いつぐらし、あの山、この山の形はいまでも忘れられません。きのこのにおいも

して来そうです。

又元気で東京真田町の会でお会いしましょう。

真田町の皆様も寒くなつて来ますのでお元気で真田町を守って下さい。いつまでもすばらしい真田町でありますように念願します。



# 東京真田町の会発足五周年記念・第七回総会、懇親会を開催



東京真田町の会では九月十八日（土）正午より、はあといん乃木坂（健保会館）において、第六回総会ならびに懇親会を開催しました。

真田町からは、若林町長・山宮町議会議長・松尾教育長ほか三十五名、来賓として、羽田副総理（代理）井出議員（一本）会員百八十八名が出席して開催されました。

総会は信濃の国斉唱で始まり、小林会長の挨拶つづいて真田町若林町長の挨拶があり、規約により小林会長が議長となり議事にはいる。

平成四年度会務報告・同会計決算報告・監査報告そして、平成五年度事業計画（案）同平成五年度予算（案）（四百六十万円）が会員全員拍手で一括可決して総会は約四十分で終了、休憩二十分その間真田氏発祥の郷・真田町NOWのビデオを拝見。このビデオは、真田氏発祥の郷として広く知られる真田町の今の姿を観光・文化財・産業・行事・老若男女のエネルギッシュな様子をこの一本にまとめた。

このビデオから真田町のすばらしさを知り、ふるさと真田町

の町づくりの参考になれば幸いです。と記されています。

このビデオが終わり懇親会に入る、小林会長の歓迎の挨拶、塩沢副会長の来賓者の紹介、来賓者の井出議員・羽田副総理の秘書・山宮町議会議長の祝辞を頂き、会員柳沢実氏の乾杯で懇親会が開催されました。

アトラクションとして真田町出身の諏訪ひろみさんの歌、盛岡みれん・飾り舟があり、またオークションなども行われました。

今年は発足五周年になり、新名簿とドクターグリップ（ポールペン）（発足五周年記念の名入れ）を記念品としました。真田町からは、栄養価の高い信州真田町のそば粉をお土産に頂きました。



## 事務局雑感

荒井企画課長

「東京真田町の会」の総会に二度参加させていただきました。

一回は町の全課長の参加のとき、そして今年事務局の立場で参加しました。

今年は、信州博覧会に併せ、真田町訪問、真田町三十五周年などの催しがありましたので何回となく大変大勢の方とお話しすることができました。その中で異口同音におっしゃることは、あの川、あの山で遊んだこと、そして学校は……という思い出の言葉です。真田町も合併して三十五年過ぎその様子も非常に変わりました。役場周辺の特養施設「アザレアン真田」、そして「ふれあい真田館」三十五年前には、誰が想像したでしょうこの様なすばらしい施設が真田町の郷の里にも出来て、各地から訪れています。

東京真田町の会の皆さんがふれあい真田館を訪れたとき、これらの施設をキーワードに「真田町の自然の活用をもっとなさったらどうですか」という提言をいただきました。

今日まで皆忙しい〜でお互いに心をこめて話し合いもすることなく生活をしてきました。結果は物の大量生産、そして廃棄されるゴミをどこにでもボー捨てとなった時代です。真田町の自然資源、空気、緑そして清潔な水は皆と変わっていません。

これらは放置しているだけではだめで町民がそこに住んでいて初めて維持されているのだと思います。

これからも町民の皆さんが自然を愛し、自然を生かしたよりよい生活と豊かさを求める中、真田町に住んでいて良かったと言える町にしていきたいと思っています。又、東京真田町の会との交流を更に深め、皆さんが自分達の故郷が真田町でよかったと自慢できるような町にしていきたいと思っています。

東京真田町の会の皆さんの情報をお待ちしています。

## 平成4年度 決算報告書

自 平成4年4月1日

至 平成5年3月31日

(単位:円)

| 収 入 の 部 |           |           | 支 出 の 部 |           |           |
|---------|-----------|-----------|---------|-----------|-----------|
| 科 目     | 予 算       | 決 算       | 科 目     | 予 算       | 決 算       |
| 前期繰越金   | 72,899    | 72,899    | 総会懇親費   | 2,000,000 | 1,615,040 |
| 年会費     | 600,000   | 377,000   | 会報発行費   | 500,000   | 535,600   |
| 総会懇親費   | 1,500,000 | 1,472,000 | 名簿印刷費   |           | 0         |
| 真田町補助金  | 500,000   | 500,000   | 総会資料    |           | 35,400    |
| 広告費     | 500,000   | 465,000   | 事業費     | 300,000   | 128,360   |
| 寄付金等    | 250,000   | 190,000   | 会議費     | 50,000    | 20,155    |
| 雑収入     | 177,101   | 6,000     | 事務通信費   | 250,000   | 185,985   |
| 利息      |           | 2,338     | 印刷費     | 300,000   | 113,437   |
|         |           |           | 雑費      | 50,000    | 4,000     |
|         |           |           | 渉外費     | 150,000   | 125,000   |
|         |           |           | 交通費     |           | 3,060     |
|         |           |           | 手数料     |           | 1,133     |
|         |           |           | 次期繰越金   |           | 318,067   |
| 合 計     | 3,600,000 | 3,085,237 | 合 計     | 3,600,000 | 3,085,237 |

上記の通り収支決算報告いたします。

平成5年3月31日

会 計 三井 芳郎 ㊞

会 計 田中 恒夫 ㊞

上記の決算報告書は関係資料と照合の結果相違ないことを認めます。

会計監査 関谷 義久 ㊞

会計監査 倉島 保男 ㊞

## 平成5年度事業計画

- 1) 会報「日本ダボス」第6号の発行
- 2) ふるさと訪問の実施
- 3) ふるさと特産品の宅配
- 4) 真田町との交流促進のため、各種文化行事の実施
- 5) その他

## 平成5年度予算

自 平成5年4月1日

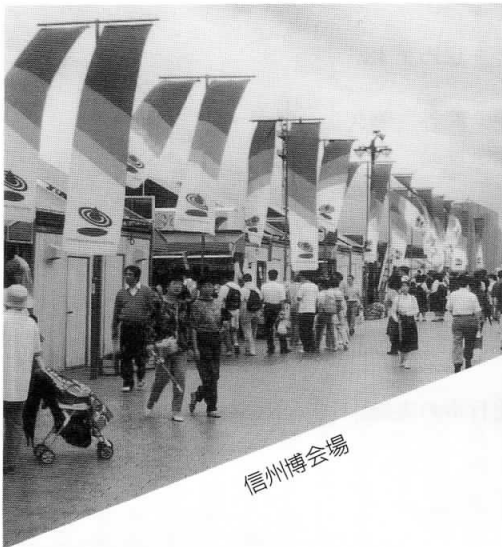
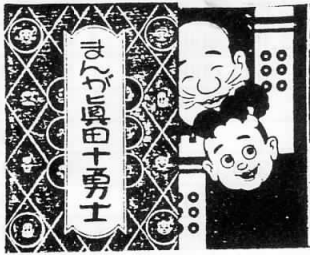
至 平成6年3月31日

| 収 入 の 部 |           | 支 出 の 部 |           |
|---------|-----------|---------|-----------|
| 科 目     | 金 額       | 科 目     | 金 額       |
| 前期繰越金   | 318,067   | 総会懇親会費  | 2,000,000 |
| 年会費     | 600,000   | 会報発行費   | 500,000   |
| 総会費     | 1,500,000 | 会議費     | 50,000    |
| 真田町補助金  | 500,000   | 事業費     | 300,000   |
| 広告費     | 1,260,000 | 事務通信費   | 450,000   |
| 寄付金     | 250,000   | 印刷費     | 300,000   |
| 雑収入(利子) | 171,933   | 雑費      | 50,000    |
|         |           | 渉外費     | 150,000   |
|         |           | 名簿発行費   | 800,000   |
|         |           | 次期繰越金   |           |
| 収入合計    | 4,600,000 | 支出合計    | 4,600,000 |

# カメラアイ

1993

真田氏の遠い記憶をたどる道  
真田街道を行く



ふるさと訪問

この一年を  
振り返ってみると

# 東京真田町の会 5周年のあゆみ抜粋

事務局

## 昭和63年(1988年)

5月17日(火)

皆様の郷土真田町は、本年10月発足30周年を迎えるにあたり、東京、神奈川、千葉並びに埼玉の都三県に在住されている、真田町出身の皆様とふるさと真田町の結び付きを深め、相互の親睦と発展を図る目的で「東京真田町の会」の結成を計画しました。大勢の皆様のご賛同をいただきたいと真田町町長宮島静男より参加申し込みの往復ハガキが郵送された。

7月1日(金)

午後2時より、千代田区二番町「番町グリーンパレス」に於いて第一回設立準備会を開催

町当局・若林助役・三井企画課長ほか5名

会員493名の中から設立準備会委員 25名

会議の結果 「東京真田町の会」設立準備会会長に、小林孝雄氏を選任

7月27日(金)

午後1時30分より「番町グリーンパレス」にて第二回設立準備会を開催

会則・事業計画・予算総会、祝賀会の日時などを決定

9月10日(土)

上野池之端文化センターに於いて、「東京真田町の会」の設立総会ならびに祝賀会を開催

出席会員236名 羽田衆議院議員、真田町町長、関係者等55名  
三井収入役の開会の挨拶ではじまり、小林設立準備会長、町長(若林助役)の挨拶、三井企画課長の設立経過報告で議案第1・2案を町当局で提出し、可決成立、「東京真田町の会」が設立されるとともに会長ほか19名の役員決定

10月1日(土)

真田町発足30周年記念式典に、初の親善交流で小林会長ほか3名出席「21世紀へのメッセージ」のタイムカプセルに、行政資料、私信などを入れ、30年後の2018年に開封する式典に参加

## 平成元年(1989年)

3月25日(土)

事業計画の1件、待望の会報「日本ダボス」創刊号完成

6月24日(土)

小林孝雄会長「真田町青少年健全育成町民大会」に講師として参加

9月2日(土)

第二回通常総会ならびに懇親会を開催

真田町から若林康朗町長・坂口明町議会議長・松尾一久教育長・消防音楽隊24名、と来賓総勢46名、会員162名が出席して盛大に举行された。

アトラクション、真田町消防音楽隊の大演奏

12月20日(水)

会報「日本ダボス」第二号発刊 真田町全戸と会員に発送

## 平成2年(1990年)

1月21日(日)

宮島静男前町長の町葬

小林孝雄会長・三井芳郎会計理事が、東京真田町の会代表で参列

3月14日(水)

シュナイダー生誕100年記念式典が、ホテルニューオータニで举行され、小林孝雄会長と横沢清人理事の2名が出席

3月20日(火)

菅平のシュナイダー記念塔を訪ねて、菅平リゾートセンターで歓迎レセプションに三井芳郎会計理事・田中恒夫理事が参加。

6月16日(土)

第三回通常総会ならびに懇親会(池之端文化センター)

真田町から、若林康朗町長ほか関係者17名久保昭二区長会長外8名と、アトラクション依頼の菅平高原太鼓、早津孟代表以下12名会員180名

8月4日(土)~5日(日)

第一回 ふるさと訪問 参加者33名

古城緑地広場の古城庵の大広間において、若林町長はじめ役場幹部等による、歓迎懇親会を開催して頂く。

夕刻より、真田まつりに参加し、終了後、角間温泉に一泊、翌日役場職員のご案内で菅平高原自然館、牧場の散策、白樺荘にて豪華昼食を頂き、帰路につく。

10月1日(月)

真田町発足記念・役場庁舎・有線放送電話竣工式典に小林会長、清水副会長、塩沢・田中・山口・小林正子・石垣各理事の7名が参列。当日、渋沢芳三氏作の額絵を町に寄贈する。

12月25日(火)

「日本ダボス」第3号会員598名に発送

## 平成3年(1991年)

6月15日(土)

真田町青少年健全育成町民大会に、山口元彦理事(弁護士)講師として参加。

10月26日(土)~27日(日)

第二回 ふるさと訪問を実施

小林会長ほか14名参加(あずまや高原ホテルに宿泊)

12月20日(金)

会報「日本ダボス」第4号完成、会員に発送する。

6月23日(日)

第四回通常総会ならびに懇親会開催(池之端文化センター)

真田町役場関係者・若林町長ほか12名と議会関係者・山宮議長ほか14名・区長会長・婦人会長など、会員256名出席し盛大に举行。

## 平成4年(1992年)

8月1日(土)

第三回 ふるさと訪問 18名参加

信綱寺・古城緑地広場見学

16時より若林町長ほか関係係官との懇親会・真田まつりに参加

四阿高原ホテルに宿泊翌日菅平高原自然館と真田本城など見学

9月27日(日)

第五回通常総会 池之端文化センターで開催

若林町長・松尾教育長・山宮町議会議長など38名・会員178名

アトラクションの真田町消防音楽隊、山崎隊長以下19名が出席。

初めてのチャリティー募金を行い34万6百円を真田町福祉へ贈る。

#### 平成5年(1993年)

1月16日(土)

会報「日本ダボス」第5号発行 会員655名に発送

5月22日(土)

三笠宮寛仁親王殿下並びに同妃殿下ご臨席のアザレアンさなだ・さなだ温泉健康ランドふれあいさなだ館・真田町御

屋敷公園・合同竣工祝賀式に、小林会長・清水副会長・三井会計理事が参列。

9月11日(土)

第四回信州博とふるさと訪問 23名参加

9月18日(土)

東京真田町の会、発足5周年記念、第6回ならびに懇親会を「はあといん乃木坂」(健保会館)において、真田町若林町長、松尾教育長、山宮町議会議長ほか32名、来賓羽田副総理(代理)井出国議員、会員152名 合計186名にて開催



さなだ温泉健康ランド  
ふれあいさなだ館



アザレアンさなだ  
お年寄りの生きがいを  
安心サポート  
心と体の健康がここにあります



一、山野に生きた戦国  
真田軍団 夢の里  
一、真田町発足三十五周年記念誌  
(町勢要覧)

# 名簿訂正

平成5年9月発行の会員名簿の訂正

記入してください

|      |            |        |                              |              |
|------|------------|--------|------------------------------|--------------|
| 9 P  | 五十嵐やす江     | 132    | 江戸川区下鎌田町294                  |              |
| 19 P | 川島 慎       | 330    | 大宮市大和田町2の214-8               | 0486-86-1962 |
| 22 P | 桑田 博幸      | 299-11 | 君津市君津台2-23-10                |              |
| 50 P | 野間 亮子 (北沢) | 350    | 川越市古谷上6083-7川越グリーンパーク F2-305 | 0492-35-6251 |
| 74 P | 横沢百合江      | 355    | 戸田市新曾387                     | 048-441-0489 |

訂正して下さい

|      |       |                        |
|------|-------|------------------------|
| 14 P | 大久保正博 | 上用賀4-36-J403をJ208と     |
|      | 大久保柳寿 | 奥沢5-25-2を駒沢4-32-2と     |
| 17 P | 加茂谷篤子 | 出身地長を菅平と               |
| 30 P | 佐藤 光妙 | 出身地伊那を松本と              |
| 41 P | 武田 守夫 | 千葉県川市を市川市と             |
| 48 P | 成沢 道子 | は山本道子と                 |
| 54 P | 広沢 栄子 | 小川西町住宅31号を小川西町2-4-409と |
| 56 P | 堀内 今代 | 東向島6-15-1を東向島6-51-1と   |

退会その他抹消して下さい

|      |       |      |       |
|------|-------|------|-------|
| 17 P | 海瀬 志づ | 18 P | 川手ます子 |
| 27 P | 酒井 三男 | 35 P | 鈴木 昭二 |
| 37 P | 関 保   | 52 P | 原 久雄  |
| 74 P | 横沢とき子 | 18 P | 川本たづ子 |

78 P重複につき抹消して下さい

|       |       |
|-------|-------|
| 若林 芳子 | 若林柳太郎 |
| 和田 末子 | 渡辺 規  |
| 渡辺 典子 | 渡辺喜美代 |



## 総会の予告

平成六年の総会及び懇親会は、九月三日(土)池之端文化センターにて行います。  
七月中にご案内しますが、今からご都合をつけ大勢の皆さんのご出席をお待ちしています。

## 寄付御礼

平成五年度も多大のご寄付を頂戴しまして誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

|        |         |
|--------|---------|
| 横沢 正晃様 | 四〇、〇〇〇円 |
| 飯嶋 義道様 | 二〇、〇〇〇円 |
| 飯嶋慶三郎様 | 一〇、〇〇〇円 |
| 上原 辰夫様 | 一〇、〇〇〇円 |
| 坂口 豪様  | 一〇、〇〇〇円 |
| 田中 静江様 | 一〇、〇〇〇円 |
| 長屋 京子様 | 一〇、〇〇〇円 |
| 井出 正一様 | 会費一万円   |
| 羽田 孜様  | 会費一万円   |

## 広告御礼

今年は格別お世話さまになりました。特に会員名簿の発行に当りまして、真田町商工会のみなさんと東京の会員のみなさんには、多くの広告の御出稿を頂き誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

日本ダボス第六号についても広告の御協力をいただきました。ありがとうございます。  
今回は紙面の都合で二頁となりましたが、次回は四頁を予定いたして居ります。その節にはよろしくお願い申し上げます。

## 編集後記

日本ダボス第六号を発行するに当たり立派な原稿や貴重な写真などの、ご協力を賜り紙面を飾ることが出来ました。有り難うございました。会報も六号となりましたが、何分にも素人の編集ですので、不備の点があると思います。ご容赦ください。又お気付きの点が有りましたら、是非お聞かせ下さい。  
会も今年は五周年になりました。今から、会員の皆さんに記念品と会員名簿を送りました。現在入会者で、平成五年度までの会費未納の方は、お早めに郵便振替用紙で「東京11255577」東京真田町の会へお振り込み下さい。お願いします。

## 写真提供

|       |
|-------|
| 真田町役場 |
| 荒木孝一  |
| 塩崎武男  |
| 清水清晴  |



# 祝 東京真田町の会 一会報6号

広げましょう 同郷の和と輪

これからも皆様と共に。

COMPUTER CONTROL COMMUNICATION 3C



高い技術水準と優れた環境の浅間テクノポリスの中核都市「上田」。

その上田市周辺に山洋電気は5工場を有し、世界のトップレベルのハイテク商品を全世界に送り出しています。

上田事業所には真田町から約130名の方々のご協力を載せております。21世紀を担う主役——それはあなたです。

## 山洋電気株式会社

代表取締役社長 横沢 新二郎 (真田町荒井出身)

上田事業所 長野県上田市緑が丘1-1-7 TEL 0268-22-8585 (大代表)  
緑が丘工場、塩田工場、築地工場、青木工場、富士山工場  
本社 東京都豊島区北大塚1-15-1 TEL 03-3917-5151 (大代表)

### (株)東京マネジメント・コンサルタンツ

〒231 横浜市中区日本大通18マースクビル  
(大桟橋通り)

TEL 045(662)1201 FAX 045(662)1414

日本では高齢化社会の到来が、世界に前例のない速さで進行しています。このため国民の保健衛生に関する施策と病院・診療所の経営が激しい変革の波にさらされています。こうした状況の中で、当社はお医者さんが不安なく診療に専念できるよう、病医院の経営面をサポートするため、首都圏全域にわたりコンサルティング活動を行っています。

(所属グループ)

社団法人日本医業経営コンサルタント協会

神奈川県支部 (支部長)

税理士と公認会計士の組織TKC神奈川会 (会長)

パートナー制による税理士等の事務所 (代表パートナー)

関 谷 義 久 (戸沢出身)

自宅〒211 川崎市中原区

小杉町1-403-4パロス

TEL 044(711)0055

### (株)TKC東京パートナー会計事務所

〒211 川崎市中原区小杉町1-403

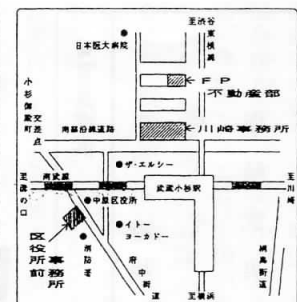
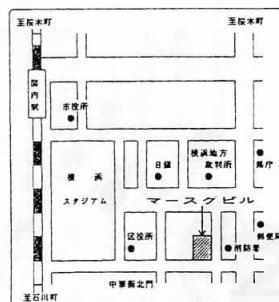
武蔵小杉STMビル (武蔵小杉駅正面)

TEL 044(733)1101 FAX 044(733)1102

世界各国の政治経済動向が私達の生活に直接影響を及ぼすまでに経済はグローバル化しています。景気の好・不況の繰りかえしの中で、不況時に真先にその直撃を受けるのが中小企業です。当事務所はその中小企業の基盤強化と経営発展に貢献することを信条として活動しています。

横浜事務所

川崎3事務所



# 祝 東京真田町の会 一会報6号一

広げましょう 同郷の和と輪

|                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                               |                                                                                                                           |                                                                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>東京真田町の会</p> <p>副会長<br/><b>荒木孝一</b><br/>(真田出身)</p> <p>〒188 東京都田無市向台町一七七一三〇<br/>TEL (〇四二四) 六三二七二〇九</p>                | <p>国際浮出印刷株式会社</p> <p>代表取締役<br/><b>飯嶋徳磨</b><br/>(中組出身)</p> <p>〒333 川口市芝四八七九<br/>TEL (〇四八二) 六五一三三七四</p>                                                                                            | <p>土地・建物・測量・登記<br/>飯嶋測量事務所</p> <p>土地調査士<br/><b>飯嶋義道</b><br/>(中組出身)</p> <p>〒230 横浜市鶴見区梶山一三八一十一<br/>TEL (〇四五) 五八一〇三二四<br/>TEL (〇四五) 五七一五〇五五</p> | <p>株杉生電機 取締役<br/>東京真田町の会</p> <p>理事<br/><b>大久保治夫</b><br/>(大日向出身)</p> <p>〒182 調布市柴崎一七一一二一〇三<br/>TEL (〇四二四) 八五二四七七</p>       | <p>東京真田町の会 理事</p> <p>一級建築士<br/><b>荻原啓治</b><br/>(四日市出身)</p> <p>〒168 東京都杉並区和泉四一四二一三三〇一<br/>TEL (〇三三) 三三一五五九三〇</p>                                    |
| <p>有限会社 オフテルス</p> <p>取締役会長<br/><b>小林孝雄</b><br/>(曲尾出身)</p> <p>〒233 横浜市港南区日野四丁目四五一五<br/>TEL (〇四五) 八四三三八〇四一</p>           | <p>勝田電設工業株式会社</p> <p>代表取締役<br/><b>塩沢和政</b><br/>(大日向出身)</p> <p>〒132 東京都江戸川区西小松川町三七番二号<br/>TEL (〇三三) 三六五二一八六七六代</p>                                                                                | <p>長野県人会連合会評議員<br/>柏江市長野県人会顧問<br/>東京真田町の会副会長</p> <p><b>清水清晴</b><br/>(中横道出身)</p> <p>〒201 東京都柏江市東野川三十一二二二<br/>TEL (〇三三) 三四八九一〇七六三</p>           | <p>峰岡町一丁目町内会<br/>民生委員・児童委員</p> <p>会計<br/><b>田中恒夫</b><br/>(横尾出身)</p> <p>自宅〒240 横浜市保土ヶ谷区峰岡町一九三二二<br/>電話 〇四五 (三三三) 三九八二番</p> | <p>ロシア料理 渋谷ロブスキー</p> <p>副社長<br/>調理部長<br/><b>長屋京子</b><br/>(菅平出身)</p> <p>本館〒150 渋谷駅南口日本交通公社前大和田ビル2F<br/>渋谷区桜丘一六一三三和田ビル2F<br/>TEL (〇三三) 三四六三二一九一</p>  |
| <p>東京真田町の会</p> <p>司法書士<br/><b>堀内寿美</b><br/>(横道出身)</p> <p>〒151 東京都渋谷区代々木二二〇一一九<br/>東洋ビル四〇二号<br/>TEL (〇三三) 三三七九一九一八二</p> | <p>中央建設国民健康保険組合理事<br/>社会保険<br/>労務士<br/><b>三井周</b><br/>(大庭出身)</p> <p>事務所〒134 東京都江戸川区東葛西七六一四<br/>TEL (〇三三) 三六八九一三一九一<br/>FAX (〇三三) 三六八九一三一九九<br/>自宅〒133 東京都江戸川区篠崎町三一九九<br/>TEL (〇三三) 三六七七一三六三六</p> | <p>東京真田町の会</p> <p>会計理事<br/><b>三井芳郎</b><br/>(大庭出身)</p> <p>〒156 世田谷区船橋一四八八三三<br/>TEL (〇三三) 三四八二一九三三三</p>                                        | <p>アートメディア木精会主宰</p> <p>洋画家<br/>国画家<br/><b>森本幹生</b><br/>(入軽井沢出身)</p> <p>〒211 川崎市中原区小杉陣屋町一六八<br/>TEL (〇四四) 七三三三〇二六七</p>     | <p>新お茶の水法律事務所</p> <p>弁護士<br/><b>山口元彦</b><br/>(横沢出身)</p> <p>〒101 千代田区神田淡路町一八九一<br/>ニューお茶の水ビル七〇二号<br/>TEL (〇三三) 三五五五七七九六<br/>FAX (〇三三) 三五五五七七九六〇</p> |

## 真田町民憲章

私たちは、豊かな自然に恵まれた真田町の町民です。

私たちの真田町は、真田氏発祥の郷であり、たくましい町民の不屈の精神によって大きく発展し続けている町です。

私たちは、真田町の町民であることに誇りと生きがいを持ち、よい町民となるために、町民憲章を心のよりどころとします。

- 1 自然を愛し環境を整え美しい町をつくります。
- 1 生産に励み豊かなくらしのある町をつくります。
- 1 お互いに助け合い暖かい心がかよう町をつくります。
- 1 からだを鍛え心を豊かに健康な町をつくります。
- 1 教養を高め創意あふれる清新な町をつくります。

---

日本ダボス (平成5年12月25日発行)

発行 東京真田町の会 会長 小林 孝 雄

編集委員 清水 清 晴 三井 芳 郎 飯 島 義 道  
長 屋 京 子 石 垣 節 子 小 林 正 子

印刷 (有)中沢活版所